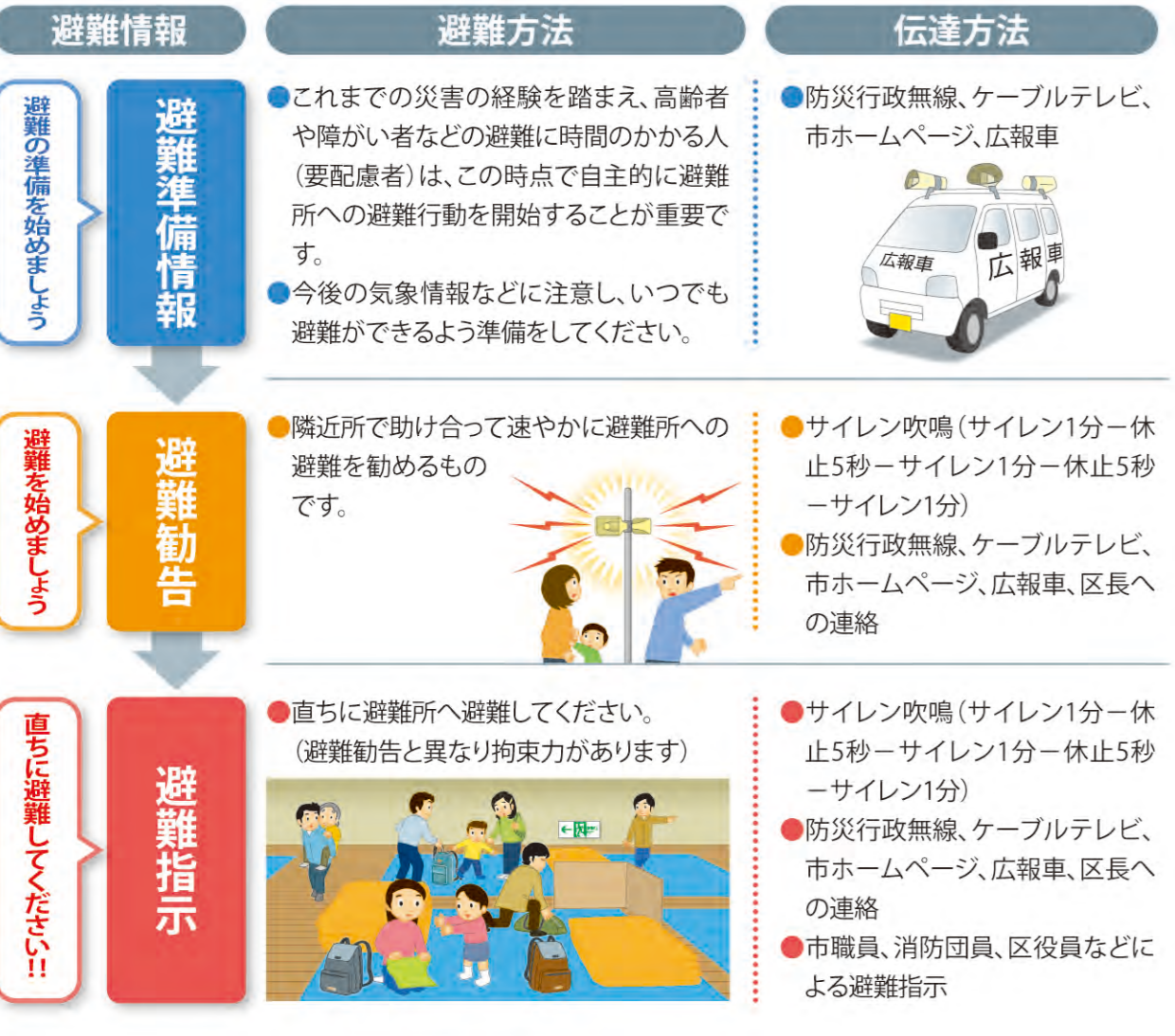


京丹後市防災マップ

洪水・土砂災害に備えて

避難情報の種類

災害の危険性が高まったとき、市から避難情報が発令されます。市から発令される避難情報は3種類あります。どの情報かを判断し、適切な行動をとってください。また、避難準備情報や避難勧告が発令されていても、状況によっては避難所に避難することが危険な場合もあります。下段の「水平避難と垂直避難」を参考に、その時取る一番安全な方法を取ってください。



大雨・洪水に関する「注意報」「警報」について

気象庁から、下記のような場合に「注意報」「警報」が発表されます。さらに、警報の発表基準をはるかに超える豪雨が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。「注意報」「警報」「特別警報」は、市や報道機関を通じて地域住民のみさんへ伝えられます。

大雨・洪水注意報、大雨・洪水警報、大雨特別警報の発令基準と危険度の説明。大雨により、浸水災害や土砂災害など発生するおそれがある場合、大雨・長雨、融雪などにより、河川の増水やはん濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがある場合、台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、もしくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想したときに発表。

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難準備情報や避難勧告が発令されていても、がけや浸水区域から離れた（水平避難）だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動（垂直避難）するという判断も必要です。また、土砂災害の危険性がある地区では、屋内でも山と反対側に避難することも必要です。

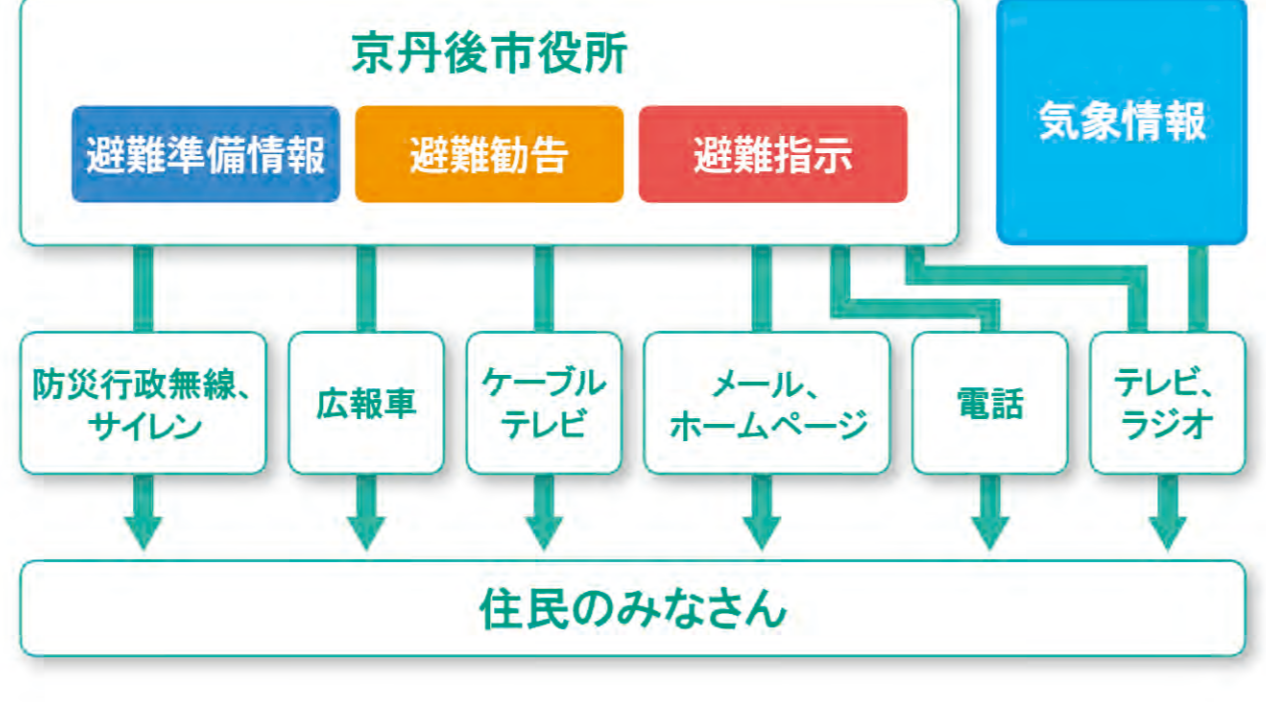


河川の水位情報

河川の水位情報に関する表。水位の名称と発表される情報（はん濫の発生、はん濫危険水位、避難判断水位、はん濫注意水位、水防団待機水位）を説明している。

情報伝達の経路

避難勧告、避難指示等は下図のような経路で住民のみさんに伝達されます。



いざというときの連絡先

機関名、電話番号、代表、災害対策本部、警察署、消防署の連絡先一覧表。

雨の強さ・降り方と災害の危険性

1時間雨量と予想用語、人の受けるイメージ、への影響と屋外の様子、災害の危険性の関係性を示す表。やや強い雨、強い雨、激しい雨、非常に激しい雨、猛烈な雨の5段階を説明している。

防災情報の入手先

京丹後市ホームページ、京都府河川防災情報、京都府土砂災害警戒情報、気象庁/京都府気象台、京都府道路情報提供システムなどの防災情報入手先を紹介している。

災害用伝言サービス

地震や洪水などの大災害発生時は、電話利用が急激に増加し、電話が繋がりにくい状況が数日間続くことがあります。このような場合は、「災害用伝言ダイヤル」が開設されます。

災害用伝言ダイヤル177の録音方法と再生方法のフローチャート。録音は177をダイヤルし、1を押すことで録音開始、2を押すことで録音終了。再生は177をダイヤルし、1を押すことで再生開始、2を押すことで再生終了。

局地的大雨(ゲリラ豪雨)から身を守るために

もし、こんな場所にいたら... 川などの釣りや水遊び、河原や川の中州でのキャンプ、バーベキュー、地下をくぐる形式の立体交差(アンダーパス)、河川や下水道工事現場。天気急変に注意し、危険を感じたらすぐに身の安全を図ってください。

チェックすべき事、こんなときは要注意。天気予報、警報や注意報、空の状態、川の状態、看板などの状況を確認する方法を説明している。

わが家の防災メモ

家族で避難先や緊急時の連絡先などについて話し合い、しっかりと記入しておきましょう。

家族がはなればなれになった時の集合場所、避難場所までの経路、家族の連絡先などの記入欄。

家族の名前、生年月日、血液型、会社・学校の電話番号、携帯電話番号などの家族情報表。

非常持ち出し品

避難が必要になった場合に備えて、非常持ち出し品を準備しましょう。リュックサックなどにまとめて、いつでも持ち出せる場所に保管しておくといいでしょう。

食料、救急・安全対策、貴重品、衣類など、日用品などの非常持ち出し品のリストアップと準備方法の紹介。

「循環備蓄」を心がけよう。備蓄食料・飲料水の保存期限が切れる前に消費し、その分だけ新たに補充して常に一定量のストックを確保することを「循環備蓄」といいます。

風水害への備え

風水害による家屋の被害を抑えるために、日頃から家の周りの点検や整備を行いましょう。

外壁、ペランダ、屋根・雨どい、板葺、排水溝、窓、ブロックなどの風水害への備えに関するチェックリストと対策の紹介。

避難の心得

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。

状況により、まずは避難しよう、外出中の家族には連絡メモを渡そう、住所・氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう、車での避難は控えてください、非常持ち出し品は最小限に、防災訓練に参加しようなどの8つの心得を紹介している。

防災・減災の基本

防災・減災の基本は、日頃から災害に備え、『自助』『共助』『公助』が、互いに連携し被害を最小限にとどめることです。

自助、共助、公助の3つの防災の基本を説明し、自主防災組織の役割と活動、平常時の取り組み、災害時の活動などを紹介している。

避難行動要支援者について

避難行動要支援者とは、年齢や障がい、言葉の違いなどによって災害発生時の対応に向かうのが難しい人々の方です。一般に高齢者や障がい者、乳幼児や妊産婦、日本語を十分理解できない外国人の方々などが該当します。

高齢者・病人、目の不自由な方、肢体の不自由な方(車椅子)、耳の不自由な方、外国人の方などの避難行動要支援者に対する支援方法を紹介している。

土砂災害の種類と前兆現象

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)、土石流、地すべりの3種類の土砂災害の発生メカニズムと前兆現象を説明している。

土砂災害の前兆現象(前兆現象)に関する表。五感(移動主体、視、水、樹木、音)と前兆現象(がけ崩れ、土石流、地すべり)の対応関係を説明している。

土砂災害から身を守るためのポイント

危険度の確認、避難の入手、早期の避難、危険を感じたら早めに避難などの土砂災害から身を守るためのポイントを紹介している。

土砂災害警戒情報に関する説明。土砂災害警戒情報は、大雨警報の発表中に、土砂災害発生の危険度が高まったとき、京都府と京都府気象台が共同で発表する情報です。